

中学校技術・家庭〔技術分野〕

平成28年度 奈良県中学校教育課程研究集会

平成28年7月29日

教育課程の編成について

技術・家庭科 技術分野の目標

目標

<技術・家庭科>

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

<技術分野>

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する**基礎的・基本的な知識**及び**技術を習得**するとともに、**技術**と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、**技術を適切に評価し活用する能力と態度**を育てる。

3年間を見通した全体的な指導計画の作成

- ア 技術分野、家庭分野の授業時数は、3年間を通して均等に配当する
- イ すべての内容をすべての生徒に履修させる
- ウ A(1)は第1学年の最初に履修させる

技術分野		目	
A 材料と加工に関する技術	ア 生活や産業の中で技術が果たしている役割や技術の向上や産業の継承と発展に果たした技術の進歩と環境との関係	必修	A 技術とものづくり (1) 生活や産業の中で技術が果たしている役割や技術の向上や産業の発展に果たした技術の進歩と環境・エネルギー・資源との関係 (2) 製作の目的や使用条件に即した製作品の機能や構想の表示方法と、製作に必要な材料の特徴と利用方法 (3) 製作に使用する工具や機器の使用方法及び加工の仕組み及び仕上げ (4) 製作の目的や使用条件に即した製作品の機能や構想の表示方法と、製作に必要な材料の特徴と利用方法 (5) エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み (6) 製作の目的や使用条件に即した製作品の機能や構想の表示方法と、製作に必要な材料の特徴と利用方法
	イ 材料と加工法と利用方法と、工具や機器の安全な使用と加工に関する技術の適切な評価・活用		
	ウ 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作		
	エ 使用目的や使用条件に即した機能と構造の表示方法と製作		
B エネルギー変換に関する技術	ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みと機器の基本的な仕組み、保守点検と事故防止	選択	B 情報とコンピュータ (1) 生活や産業の中で情報手段が果たしている役割や情報化が社会や生活に及ぼす影響と、情報化の必要性 (2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作 (3) コンピュータの活用形態と基本的な情報の処理 (4) 情報の収集、伝達方法の特徴と利用方法 (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用 (6) マルチメディアの特徴と利用方法
	イ エネルギー変換に関する技術の適切な評価		
C 生物育成に関する技術	ア 生物育成に関する技術の適切な評価・活用	必修	(1) 生活や産業の中で情報手段が果たしている役割や情報化が社会や生活に及ぼす影響と、情報化の必要性 (2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作 (3) コンピュータの活用形態と基本的な情報の処理 (4) 情報の収集、伝達方法の特徴と利用方法 (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用 (6) マルチメディアの特徴と利用方法
	イ 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育目的とする生物の育成計画と、栽培又は飼育		
D 情報に関する技術	ア コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みとネットワークにおける基本的な情報通信の仕組み	選択	(1) 生活や産業の中で情報手段が果たしている役割や情報化が社会や生活に及ぼす影響と、情報化の必要性 (2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作 (3) コンピュータの活用形態と基本的な情報の処理 (4) 情報の収集、伝達方法の特徴と利用方法 (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用 (6) マルチメディアの特徴と利用方法
	イ 情報通信の仕組みとネットワークの活用		
	ウ ネットワークに関する技術の適切な評価・活用		
E デジタルメディアに関する技術	ア デジタルメディアの特徴と利用方法、制作品の設計	必修	(1) 生活や産業の中で情報手段が果たしている役割や情報化が社会や生活に及ぼす影響と、情報化の必要性 (2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作 (3) コンピュータの活用形態と基本的な情報の処理 (4) 情報の収集、伝達方法の特徴と利用方法 (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用 (6) マルチメディアの特徴と利用方法
	イ デジタルメディアの特徴と利用方法、制作品の設計		
F デジタルメディアに関する技術	ア デジタルメディアの特徴と利用方法、制作品の設計	選択	(1) 生活や産業の中で情報手段が果たしている役割や情報化が社会や生活に及ぼす影響と、情報化の必要性 (2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作 (3) コンピュータの活用形態と基本的な情報の処理 (4) 情報の収集、伝達方法の特徴と利用方法 (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用 (6) マルチメディアの特徴と利用方法
	イ デジタルメディアの特徴と利用方法、制作品の設計		

題材の設定

ア 各項目、事項の有機的な関連を図る

イ 小学校の図画工作科や中学校の他教科との関連を図る

ウ 生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的な学習活動や個性を生かす

エ 生徒の日常生活とのかかわりや社会とのつながりを重視

内容

・ 現代社会で活用されている多様な技術を、①材料と加工に関する技術、②エネルギーの変換に関する技術、③生物育成に関する技術、④情報活用に関する技術等の観点から整理し、すべての生徒に履修させる。

・ 各内容は、それぞれの技術についての「**基礎的な知識、重要な概念等**」、「**技術を活用した製作・育成**」、「**社会・環境とのかかわり**」に関する項目で構成する。

社会で活用されるTechnologyについて学ぶ

【習得:Technologyについての基礎的・基本的な(陳腐化しない)知識・技能】

Technologyについての基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題を解決する(ものづくり)

【活用:「ものづくり」において、設計・計画できる思考力等】

Technologyと社会や環境との関わりを理解し、評価・活用する

【探究:Technologyを評価・活用できる思考力等と態度】

技術分野の構造 内容Bエネルギー変換に関する技術の例

目標 ここでは、エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成することをねらいとしている。

	学習指導要領	育成すべき資質・能力
社会で活用されているTechnologyについて学ぶ	(1)エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について、次の事項を指導する。 ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること。 イ 機器の基本的な仕組みを知り、保守点検と事故防止ができること。	【知識】 機器等において、エネルギーがどのような方法で変換、制御され、利用されているか知る 力や運動を伝達する仕組みの特徴や共通部品について知る 機器がその目的を達成するために、どのような構造や電気回路で作られ、各部がどのように働いているかについて知る 【技能】 保守点検と事故の防止できる
Technologyについての基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題を解決する(ものづくり)	(2)エネルギー変換に関する技術を利用した制作品の設計・製作について、次の事項を指導する。 ア 制作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。 イ 制作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検ができること。	【能力】 目的や条件に応じて、製作品に必要な機能と構造を工夫する能力を育成する 【知識】 工具や機器の適切な使用方法を知る 【技能】 安全を踏まえた製作品の組立て・調整や、電気回路の配線・点検ができる
Technologyと社会や環境との関わりを理解し、評価・活用する	(1)エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について、次の事項を指導する。 ウ エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考えること。	【理解】 エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解する 【能力】 エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用する能力を育成する 【態度】 エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとする態度を育成する

資料1-2

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の概要

趣旨

- ◆ 子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要。

◆ そのためには、教育の在り方も一層進化させる必要。

◆ 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要。また、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重要。

審議事項の柱

1. 教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方

- これからの時代を、自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力の育成に向けた教育目標・内容の改善
- 課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の充実と、そうした学習・指導方法を教育内容と関連付けて示すための在り方
- 育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の改善

2. 育成すべき資質・能力を踏まえた、新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し

3. 学習指導要領等の理念を実現するための、各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策

- 各学校における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連の「カリキュラム・マネジメント」の普及
- 「アクティブ・ラーニング」などの新たな学習・指導方法や、新しい学びに対応した評価方法等の開発・普及

文部科学省作成資料

育成すべき資質・能力をふまえた教育課程の構造化（イメージ）

教育の普遍的な目的・目標

- 教育基本法に規定する教育の目的(1条)、目標(2条)等
- 学校教育法に規定する教育の目的・目標、学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲)等

時代の変化や子供たちの実態、社会の要請等
生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等に伴う厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造し、未来を切り開いていく力が必要。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

- ◆ 自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力
- ◆ 我が国の子供たちにとって今後重要と考えられる、何事にも主体的に取組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、豊かな感性や優しさ、思いやり等

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの
学習評価の充実

何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある一員として、自立して生きる力の育成に向けた高校教育の改善

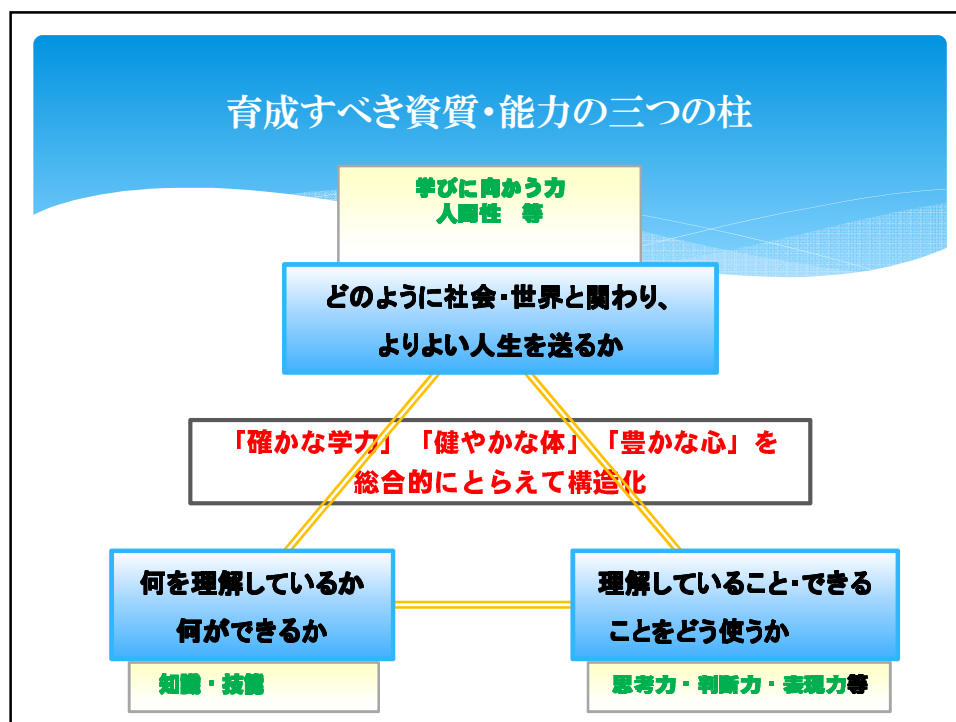
どのように学ぶか

育成すべき資質・能力を育むための課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（「アクティブ・ラーニング」）

- ◆ ある事柄を知っているのみならず、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していけるよう、学びの質や深まりを重視。

理念を実現する環境作り

- ◆ 各学校のカリキュラム・マネジメント支援
- ◆ 新たな学習・指導方法や評価方法の更なる開発や普及を図るための支援



「アクティブ・ラーニング (AL)」について

○ALとは、単に特定の型をさせることなく、

- ①「習得・活用・探究という学習プロセスの中で、
問題発見・解決を念頭に置いた深い学び」
- ②「他者との協働や外界との相互作用を通じて、
自らの考えを広げ深める、対話的な学習」
- ③「見通しを持って取り組み、自らの学習活動を
振り返って次につなげる、主体的な学び」

必要な資質・能力を総合的に育むこと

アクティブラーニング(AL)について 「教える」から「学ぶ」への転換をはかるもの

	授業の型	授業の特色	習得	活用	探究
伝統的授業	講義型	教師から学生への一方向的な知識伝達型授業。教師主導。	↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓
	講義中心型	コメントシート等を用いて教師・生徒の双方向性を実現する授業。教師主導。			
AL型授業	講義+AL型	教師主導であるが、講義だけでなく、学生の書く・話す・発表する等の活動もある授業。			
	AL中心型	徹底的に学習パラダイムに基づいた学生主導の授業。			

技術分野の学習活動(言語活動)

活動の種類	活動の考え方	活動例
読む・聞く活動 (設計等のトレーニングの場面)	<p>【他者の思考の道筋をなぞることによる思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>他者がどのように考え課題を解決したのか、「書かれたもの」「話」「実物」から読み取る(思考の道筋をなぞる)ことをとおして、他者と同様の思考力、判断力、表現力等を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電気機器の分解 ・アイデア発見シート ・技術者の講演
話す・書く活動 (設計・計画の場面)	<p>【実際に経験させることによる思考力・判断力・表現力等の育成】</p> <p>実際に目標とする思考力・判断力・表現力等が必要な場面を意図的に設定し、そこで考えたことを言葉や記号を用いて表現させることで、思考力・判断力・表現力等を育む。</p> <p>・言葉や記号を用いて、曖昧な考えや複雑な思考を簡潔に表現する。 →思考が明確になる。(思考の可視化) 可視化された思考を検討・修正。</p> <p>・自分の考えを表現・検討・修正することを繰り返す。 →思考等の筋道を実際に紙等に書いたりすることなく頭の中で表現し、それを用いて確認・修正等が行えるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製作図 ・回路図 ・栽培計画表 ・フローチャート

学習評価の目的

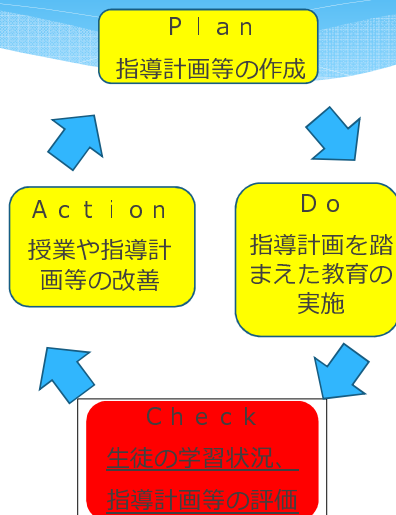
学習指導と学習評価のPDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要

○児童生徒や保護者にとっても学習評価は重要

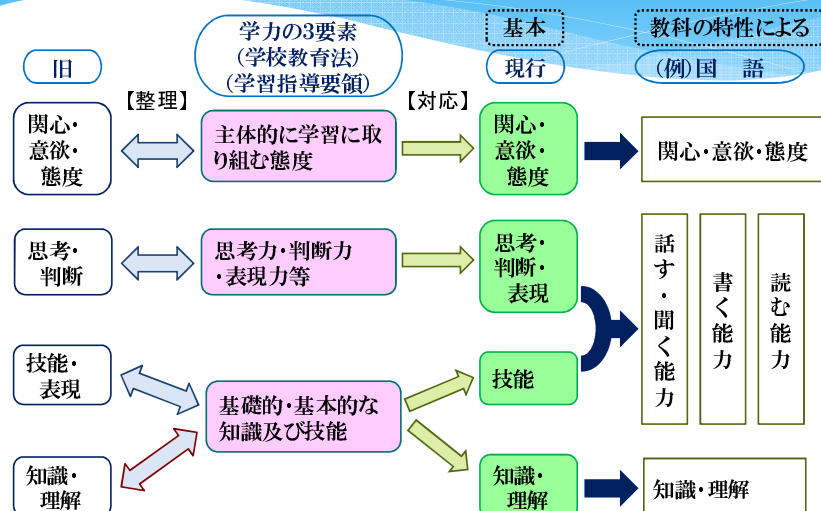
【児童生徒】 自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機

【保護者】 家庭における学習を児童生徒に促す契機

指導と評価の一体化



学力の3要素と評価の観点の整理



技術の評価・活用の目標

内容	評価規準に盛り込むべき事項
A	・材料と加工に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的及び経済的な側面などから比較・検討するとともに、適切な解決策を見いだしている。
B	・エネルギー変換に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的及び経済的な側面などから比較・検討するとともに、適切な解決策を見いだしている。
C	・生物育成に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的及び経済的な側面などから比較・検討するとともに、適切な解決策を見いだしている。
D	・情報に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的及び経済的な側面などから比較・検討するとともに、適切な解決策を見いだしている。

「関心・意欲・態度」の評価

・「関心・意欲・態度」は、**各教科(の各科目)が対象としている学習内容**に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価。

○ 学力の3つの要素の1つ

- 我が国の児童生徒は、学習意欲に課題
- 「関心・意欲・態度」は、次の点において、他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素である
 - ・主体的に学習に取り組む態度を育むことが、学習の対象としている基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成につながる
 - ・学習の対象としている基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成が、当該学習に対する積極的な態度につながっていく

※ 授業中の挙手や発言の回数、提出物の状況といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意

- 「関心・意欲・態度」の評価に伴う負担感等について指摘があったことを受け、評価方法や評価時期等の工夫を推進

<工夫の例>

- ・教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価

確認：態度を育成する方法

①継続的指導

課題を解決する際に、常に〇〇〇の視点で考えさせることで、自然と〇〇〇の視点で考えようとする←時間数が多かった事態の指導

②知識による指導

「〇〇〇は大切である」「□□□は問題がある」という知識を与えることで、〇〇〇や□□□に配慮した行動をとるようになる。

③経験させることによる指導

「〇〇〇に配慮して行動することでよい結果が得られる」「□□□に配慮せず行動することで期待通りの結果が得られない」とう経験をさせることで、〇〇〇や□□□に配慮した行動をとるようになる。

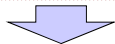
例 態度の育成(経験による育成)

個人の課題ではなく、家庭生活・社会生活における課題を自分で工夫して解決できたという「よい経験」

「思考・判断・表現」の評価

それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

- 学習指導要領において、思考力・判断力・表現力等を育成するため基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに**言語活動の充実**が求められたことから、「**表現**」を加えて設定
- 言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と**一体的に行う**ことを明確化
- 自ら取り組む課題を多面的に考察、観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだすなどの基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、説明、論述、討論といった**言語活動等を通じて評価**



- 論述、発表や討論、観察・実験とレポートの作成といった現行の学習指導要領において**充実が求められている学習活動を積極的に取り入れ、学習指導の目標に照らして実現状況を評価**
- **思考・判断の結果だけではなく、その過程を含めて評価**

確認：思考力・判断力・表現力等を育成する方法

■思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導

○基本 「言語活動」の充実

<学習指導要領 総則>

第4 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項

- (1) **各教科等の指導に当たっては**、生徒の**思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点**から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の**言語活動を充実**すること。

■読む・聞く活動

他者の思考をなぞることによる思考力・判断力・表現力の育成

他者がどのように考え課題を解決したのか、「書かれたもの」や「話」から読み取る(思考の道筋をなぞる)ことを通して、他者と同様の思考力・判断力・表現力等を育む。

技術分野の**思考力・判断力・表現力等**

<技術を評価し活用できる能力>

「**技術と社会・環境との関わり**の理解」を踏まえて

[準備]: 製造・設置 [使用] [破棄]: 製品等の廃棄、排出物等の処理 [万が一]: トラブル等

[使用目的・使用条件]: 使用する条件を踏まえて使用する目的が達成できるか

[社会的側面]: 産業も含めた社会に与える影響(安全な社会を維持できるかも含む)

[環境的側面]: 環境負荷 [経済的側面]: 費用 から評価し → 活用
「光と影」
唯一の答えはない

[使用の可否]: 使用するかしないかを判断

[使用の工夫]: 使用する場合、どのように使うか工夫

[技術の創造]: 適切な技術がない場合、必要となる技術を創造 **できる能力**

「技能」「知識・理解」の評価

「技能」

各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定

従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

※ 教科によって違いはあるものの、基本的には、従来の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価

[算数・数学]

式やグラフに表すこと

[理科]

観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること

「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

<技術分野の思考力等>

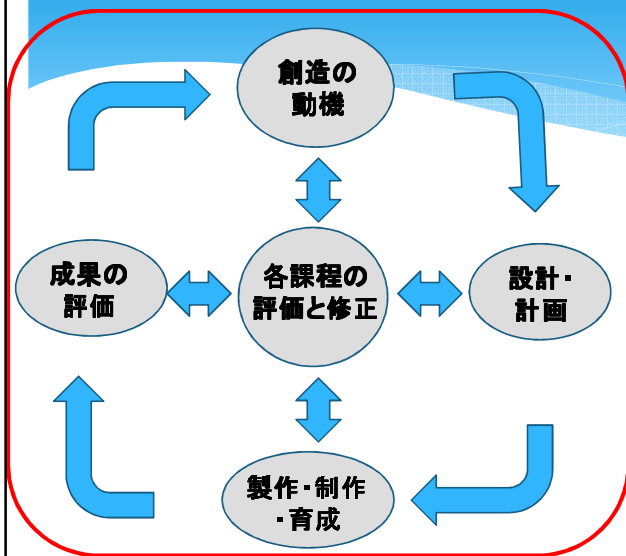
評価の観点の趣旨

材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、技術を評価し活用している。

	科学	技術
目的	知識の集積と体系化	人間の要求と欲求の充足
問題解決	正解	最適解
解の寿命	否定されない限り永久	環境条件により変わり、寿命も長短
自然に対し	自然の観察、観測と理解	自然の改変は避けられない
社会との関係	科学が社会に一方的に影響	相互に影響する双方向的関係

技術分野の学習活動

学習活動(問題解決の場面)

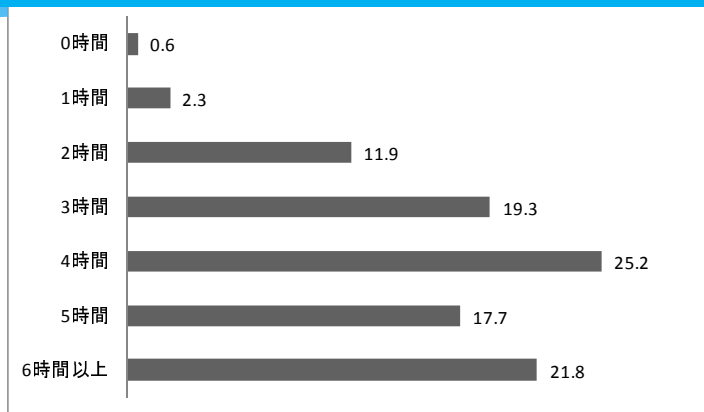


「ものづくり」
学習指導要領・解説
における説明

技術分野では、科学的な知識等を踏まえて計画・設計し、身体的な技能等を用いて具体的な物を創造するといった「ものづくり」が行われている。

課題

内容Aのうち設計及び製図に関する時数



全日本中学校技術・家庭科研究会 平成25年度全国アンケート

確認：思考力・判断力・表現力を達成する方法

■書く・話す活動

実際に経験させることによる思考力・判断力・表現力等の育成

実際に目標とする思考力・判断力・表現力等が必要な場面を意図的に設定し、そこで考えたことを言葉や記号を用いて表現させることで、思考力・判断力・表現力等を育む。

言葉や記号を用いて、曖昧な考えや複雑な思考を簡潔に表現する
→思考が明確になる。

思考の検討・修正が容易になる。 **思考の「可視化」**

自分の考えを表現・確認・修正することを繰り返す

→思考等の道筋を実際に紙等を書いたりすることなく頭の中で表現し、それを用いて確認・修正等が行えるようになる。

= 思考・判断し表現する道筋を身に付ける。

課題

・教員の指導力

免許外担当教員の増加

教科に関する研修の機会の減少

・施設・整備の不足(個人持ち→備品)

予算不足

教員の管理能力の不足

・他教科との連携

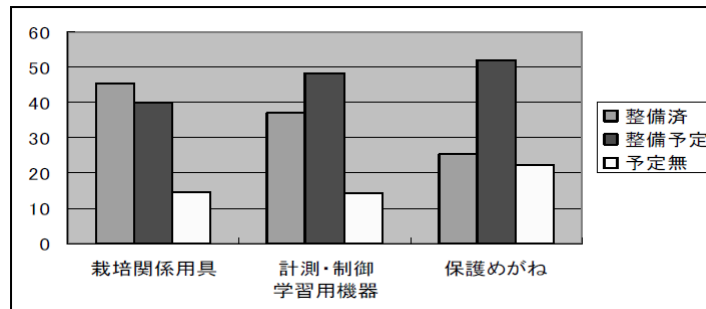
指導の順序

・評価の客観性・信頼性の確保(第3学年)

・技術の教員免許取得可能大学の減少(67大学:2県取得大学なし)

・技術の大学教員の減少

課題 平成23年度教材整備状況調べ



安全面の配慮

- * 防護メガネ、集塵機等の更新
- * 電気配線等の点検
- * 大型の機械の点検、整備
 - 機械によっては点検、整備に資格がいる場合がある。
 - 場合によっては点検、整備しやすい小型の機械に更新することも検討する。(複数ある方が大型の機械が1台あるより使い勝手がよい場合もある)

奈良県学力・学習状況調査

- 学力調査
- 生徒質問紙調査
- 教員質問紙調査

奈良県教育委員会

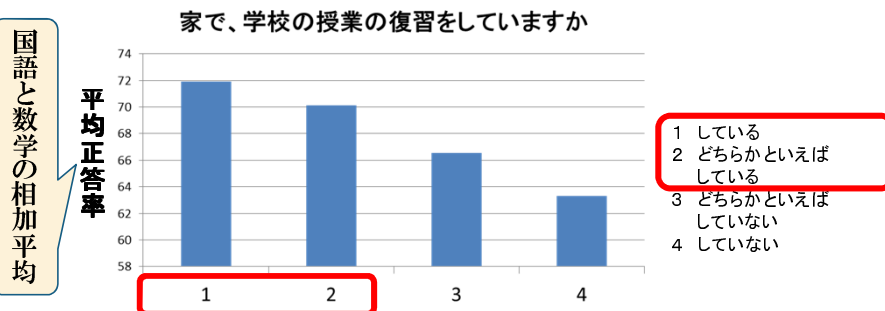
30

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉

下のグラフにおいて、「家で復習をしている」と答えた生徒ほど平均正答率が高く、「復習をしていない」と答えた生徒ほど平均正答率が低い。

質問に対する回答結果と平均正答率との間に、このような関係が見られるものを紹介する。



奈良県教育委員会

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉①

○家庭学習状況

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う。

○自尊感情

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分は、先生から認められていると思う。
- ・自分には、よいところがあると思う。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉②

○規範意識

- ・学校の規則を守っている。
- ・友達との約束を守っていますか。
- ・学校では、先生に挨拶をしている。

○社会に対する興味・関心

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に
関心がある。
- ・テレビのニュース番組やインターネットの
ニュースを見ている。
- ・家庭で、地域や社会で起こっている問題や
出来事を話題にしている。

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

〈国語・数学の結果との相関が見られるもの〉③

○授業において

- ・小学校では、授業のはじめに目標(めあて、ねらい)が示されていたと思う。
- ・小学校では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

○学習意欲

- ・国語(数学)の授業で分からないところがあれば、先生に質問している。

奈良県教育委員会

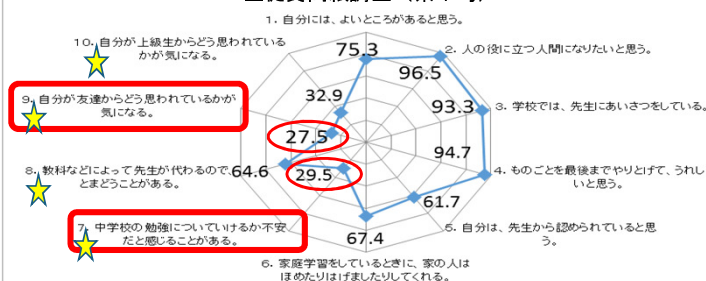
奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

○ 学校に行くのは楽しいですか。

○ 学校に行けない、または、行きたくないと思うことがありますか。



生徒質問紙調査(県平均)



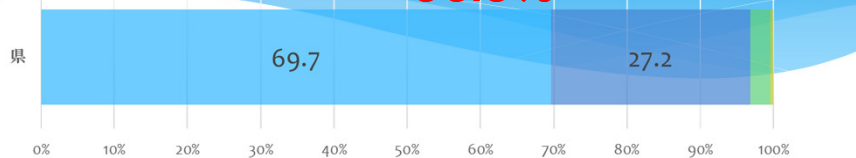
※設問1～10のうち、1～6は、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合の合計、7～10は、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した生徒の割合の合計を表す。

奈良県教育委員会

奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

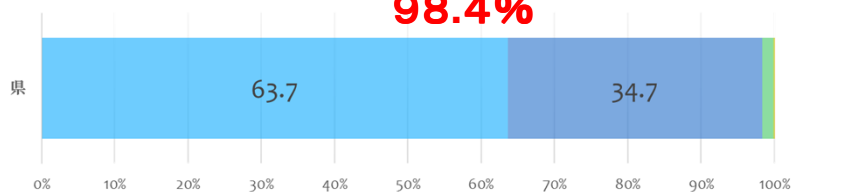
○ 生徒に学校や地域で挨拶をするよう指導していますか。

96.9%



○ 学校では、生徒のよいところを見付け、褒めていますか。

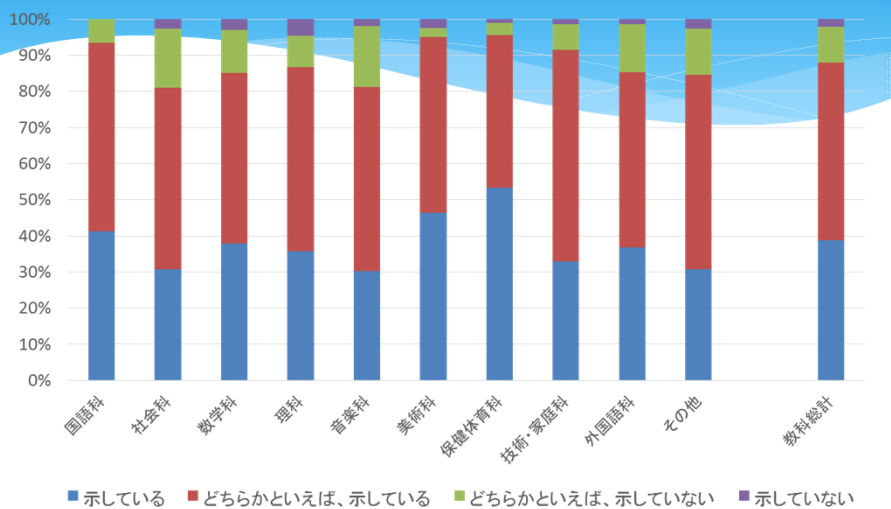
98.4%



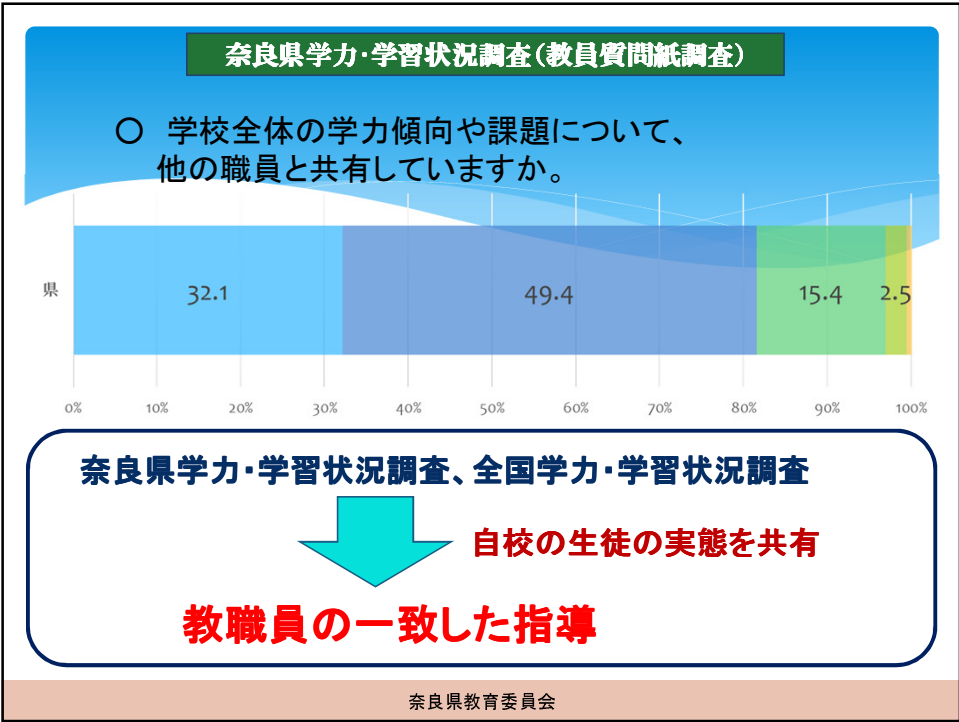
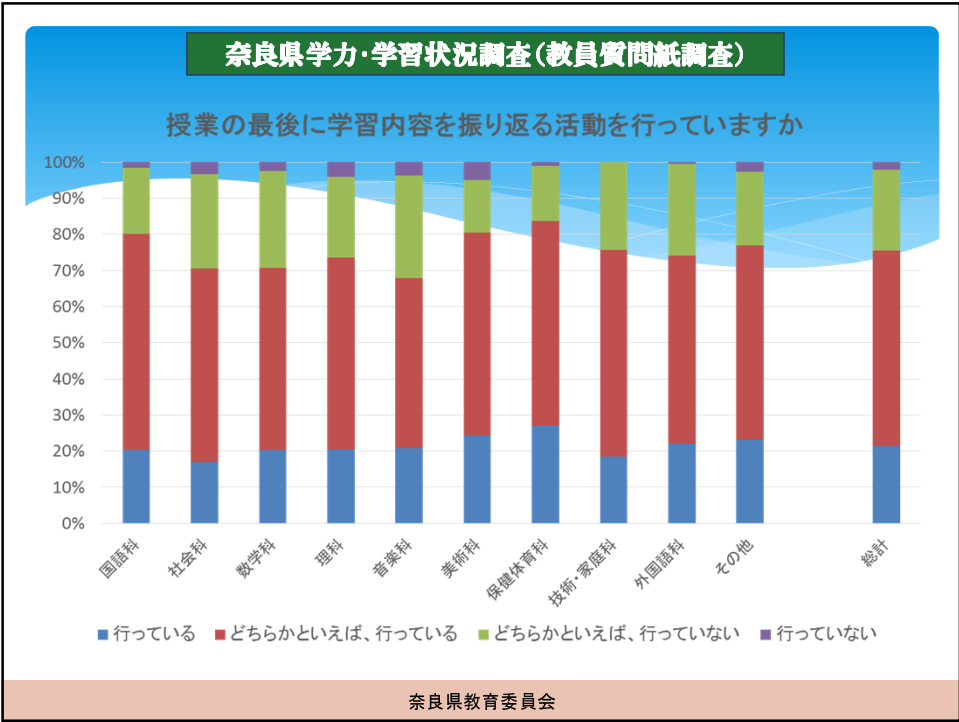
奈良県教育委員会

奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

授業のはじめに目標を示していますか



奈良県教育委員会



Web評価支援システムについて

調査結果の返却の際に、各学校ごとのIDが配布されています。Webページから、それぞれの学校内の分析結果等を見ることができます。

分析結果を、今後の指導改善に御活用ください。



40

奈良県教育委員会

ご清聴ありがとうございました。